



座光寺風景

獅子舞稽古に励む若連中のみなさん

座光寺地区の皆様には日頃より、壮年団・麻績神社若連中の活動にご理解・ご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

座光寺に春を告げる麻績神社春祭りの季節がやってきました。今年度は4月6日(土)宵祭り、7日(日)本日の日程にて執り行われることとなりました。

麻績神社獅子舞の特徴でもある獅子曳きを演じますのは、今村翔くん(高岡地区)、片桐新太くん(大堤地区)、菅沼宗志くん(唐沢地区)が務め、暴れ舞う獅子を高岡森から麻績神社へと、勇敢に導きます。

また、越後獅子には、下村萌



越後獅子を演じるお二人

伝統ある春祭りを継承して

麻績神社若連中代表 木下雅司



今年は子ども達も参加する笛クラブの皆さん

さん(上野地区)、三村真奈さん(宮崎地区)のお二人が優美な舞を披露します。他にもおかげ、ひよっここ、げじげじの個性豊かな役者たちも、お祭りをさらに盛り上げてくれます。

近年、団員の減少が課題となっておりませんが、伝統ある麻績神社春祭りを、次の世代に繋いでいけるよう若連中一丸となり準備・稽古に励みたいと思います。

令和5年度 自治会活動報告

座光寺地域自治会会長 牧野 光彰

令和5年度は、昨年度見直しを行った、「第2次座光寺基本構想・基本計画」の後期計画の、目指すまちづくりの将来像「あなたも私も暮らしやすい、自然・文化・ものづくりが煌めく新舞台『麻績の里座光寺』」の実現に向けて、6つのまちづくりを基本方針に、各施策を実践してまいりました。5月より、新型コロナウイルスの感染症レベルも2類から5類への移行を受けて、各事業を各委員会と連携し実践してまいりました。進めてきた主な事業について報告いたします。

「子どもを語る会」などで、「夏祭りなので、学校以外で友達と会えるのが楽しい」「夏祭りでは、コロナ前は楽しかった」など、子どもたちより開催の希望が多かった夏祭りも、コロナ禍のため3年間中止となっておりましたが、今年度4年ぶりに7月29日(土)に開催いたしました。

第10回大会までと少し趣を変えて、子どもたちを中心の夏祭りとし、例年のような地区観覧席は設けず、飲食は芝生の上に設けた観覧席で自由に飲んで食べてもらうことと

し、出店は、商工会や公民館・壮年団・座光寺女子力の皆さんがそれぞれ、売り場を設けていただきました。アトラクションとしては、竹宵や保育園児の踊り、座光寺小学校金管バンド、高陵中学合唱部の合唱と吹奏楽部の演奏、塩澤有輔さんのコンサートと三ツ沢けんじさんの演歌コンサート等を開催。前回までの宝投げに替わり、地域券を景品とした抽選会など、ご来場いただいた皆さんの皆さんに楽しんでいただきました。

9月3日(日)には3年間の防災訓練が行われ、ファーストミッションボックスを活用した災害対策本部の開設をはじめ、各区災害対策本部の訓練、組長・地区長を対象とした一時避難所訓練が行われました。従来、地区一時避難所へ全員が集合してから、組合毎の安否確認を行う方法を取っていましたが、今年度から、まず組合の皆さんが各組合集合場所に集合し、安否確認を行い、組長が一時避難所の地区災害本部へ安否報告を行う方法に変更しました。指定避難場所での全体訓練

は、今年度当番の3区の皆さんによる傷病者搬送訓練をはじめ、消防団の土のう作りやAED訓練が行われ、皆さん真剣に取り組んでいただきました。

また、9月29日(金)には、座光寺地域住民を対象とした、「市長と語るまちづくり懇談会」が開催され、70人を超える皆さんにご出席いただきました。地域からの課題要望として、飯田市北部地域の振興に向けた市としてのSIC周辺の研究開発型企業機関誘致等の考え方と、信州大学ランドスケープと飯田市との連携について、市に説明を求めました。また、地域内で始まったリニア関連事業について、リニア関連工事やリニア開通により交通量も増え、地区の環境が激変するため、安全で住みやすい環境を考えて道路整備などを進めてほしいことや、河川敷にあるマレットゴルフ場が本年6月の大雨と7月の強風により大きな被害を受け使用できなくなった、その復旧費用の支援、三六災害の復旧事業で作られ、60年以上が過ぎて経年劣化が進行し、脆弱となった土曾川・南大島川の護岸工の強靱化などを要望し、意見交換会が行われました。土曾川

令和5年度座光寺地域 自治会表彰

1月6日(土) エス・パード大ホールにおいて、座光寺地域自治会表彰式典が開催されました。自治会は、座光寺地域の発展と、明るく住みよい郷土建設のために貢献した個人または団体について、毎年表彰を行っています。

今年度は本庄良雄様、福田弘子様の2名が受賞されました。(順不同)

本庄 良雄 様



3期9年にわたり飯田市農業委員として飯田市および座光寺の農業発展に尽力されました。

福田 弘子 様

3期9年にわたり飯田市長権擁護委員として飯田市および座光寺地域の皆さんからの人権問題に寄り添い尽力されました。(表彰式典はご欠席)

生活安全委員会総括

生活安全委員会
委員長 赤羽目久子

1年間の活動としましては、コロナの5類への移行により行事もほぼコロナ前のように行われ、経験の少ない中なんとか活動ができました。

交通安全啓発として早朝平安堂前での人波作戦。

「子どもを守る」事業で小学校下校時のパトロール(青パト)。夏休みの時の

防犯パトロール。
防犯灯の保守及び管理。

支障木伐採、除草の地主への依頼、管理。

降雪に備え塩化カルシウム小屋設置。

消防団の非常招集訓練への協力。

夏まつり・運動会等各行事での交通警備。

文化祭での自転車シミュレーターによる自転車の安全教室への参加。

等々の各事業を実施しました。また、前年度より提案して

ておりました委員削減の件につきまして、皆様のご理解により承認していただき、令和7年度より実施できる運びとなりました。

ありがとうございました。またその際にはご協力よろしくお願ひします。

令和5年度活動報告

環境衛生委員会
委員長 松村 智則

河川清掃

本年度は対象範囲を絞り、南大島川下流域を業者に委託、欠の沢川は中河原地区と協力して草刈りを実施し総額657,000円を投じた。

また、10月の市議会議員を交えた意見交換会では、1級河川の草刈りには広域での連携が必要との意見が市議側から出された。令和6年度以降は、他地区や市議会と連携し、

県や市に地域が抱える河川清掃の課題を訴える方向で進める。

広報誌への寄稿

春と秋のごみゼロ運動の成果と水質検査の結果を広報座光寺に寄稿した。特に水質検査の結果は住民から高い関心を集めており、令和6年度以降も継続して情報提供を行いたい。

リサイクルステーション

市のごみ・リサイクルステーションカレンダーに沿って、全24回の活動を実施した。

夏祭りへの参加

会場内の美化を目指し、ごみ箱の設置、掲示物の管理、場内アナウンス、会場内の巡回などを担当した。

文化祭への参加

ごみの分別についての啓発を目的としたクイズを通じて、地域住民に情報提供を行った。

令和5年度活動報告

健康福祉委員会
委員長 増澤 郁夫

健康福祉事業、推進事業として「一人暮らしの高齢者への声掛け訪問」や日常的な声かけ活動を通じて高齢者の抱える課題を把握し、ゴミ出し困難者を地域で支えるための「ゴミ出し支援事業」をスタートしました。

コロナ禍で開催できなかった敬老祝賀会を開催できたことは来年へと繋がります。「座光寺地区通いの場事業」として令和6年4月よりフレイル予防教室(ただれざくらの会)をスタート

します。高齢者だけでなく幅広い世代への取り組みとして座光寺地域文化祭において、フードドライブを実施。また、小学生以上の子どもを育てている親子

の子どもへの向き合い方として、健和会病院の和田浩先生の「子育て講演会」を開催し、併せて「フレイル予防プラステン

講座」を実施。結婚相談員会では2回目の婚活イベントを開催し、昨年からはじめた「ファミリー料理教室」も家族で話をしながら楽しくでき、地域・家庭で幅広く健康への関心が高まったと思います。

最後に健康福祉事業にあたって地域で活躍してくれた健康福祉委員さん、また、ご協力いただいた民生児童委員さんに感謝申し上げます。

誰でも気軽に 参加できる企画で

公民館委員会
公民館長 片桐 善昭

地域学習とコミュニケーションが停滞しないよう、新たな事業モデルを検討し、各種団体と連携し取組みました。

体育部では、5年ぶりの運動会を中学生企画も含め半日開催で行い、久しぶりに歓声がグラウンドに響き渡りました。

健全育成部では、地域を知り愛着を持てるよう親子を中心に体験学習を企画し、パノラマファームとの連携によるリングゴ

狩りは好評でした。

文化部では、人形劇まつりの4年生の人形劇「SAKURA」の構成・演技に感激しました。文化祭は、小中学生が出演できず残念でしたが、高校生の音楽・書道パフォーマンスなど各種活動報告の場となりました。

また、運営委員会企画の「地域づくりフォーラム」では、リニア開通後の地域を見据え、期待や課題等を共有しました。

広報部では、4回の広報座光寺・お知らせ版・運動会等特集号により地域記録と情報発信を行いました。

「座光寺の子どもを語る会」では子どもたちの夢や意見に対し、大人ができることは何かを話し合い、今後の実践に期待します。

地域の皆様にはご理解ご協力をいただきありがとうございます。

令和
5年度

座光寺地域文化祭



2月3日(土)・4日(日) 広げよう～未来へつなぐ座光寺の絆～



毎年大盛況の屋台



各種展示



オリジナルキーホルダーづくり



下農高校 食品化学班



将来の消防団員による消火器体験



自転車シミュレーター体験



ニュースポーツ体験会



歴史講演会



フレイル予防プラステン講座



飯田市社協 ベルマーク収集



恒川官衙遺跡 タタバス体験



風越高校書道部による書道パフォーマンス



飯田女子高校吹奏楽クラブ



飯田女子高校邦楽クラブ



西川流 そ乃春会



フラ・レファ



たぬぎばやしの会

文化祭を終えて

文化部長 宮澤 賢二

本年度の文化祭は、内容を縮小せず、久しぶりに通常開催とさせていただきます。

展示品や、芸能発表など、普段はなかなか目にするのできない、地域の皆さまの文化活動を広く知ることのできる内容になったと思います。

残念ながら文化祭直前にインフルエンザなどの感染症が拡大し、以前の賑わいには程遠いものとなってしまいました。が、参加団体の皆さま、協力団体、実行委員の皆さまには、多大なるご協力・ご尽力をいただき、無事文化祭を終えることができました。

ありがとうございました。



コール・ブリランテ

地域づくりフォーラムを開催しました

公民館運営委員会

文化祭中に、地域づくりフォーラムを開催しました。今年度は、「リニアとスマーティンターで変わる座光寺」土地の活用を考える」をテーマに行いました。始めに「リニアと飯田下伊那の産業・暮らし」佐久市との比較から考える」と題し、飯田信用金庫しんきん南信州地域研究所の竹内さんより講演をいただきました。その中で、佐久市では30代の社会増加がみられること、新幹線駅周辺は農地だったことから大規模な開発ができたこと、私立学校を誘致するなど教育に力を入れたことなどが挙げられました。



原田聡昭運営委員長

その後、ご参加いただいた42人が9つのグループに分かれ、「リニア時代にどんな座光寺にしたい？」という内容で、6つの視点で話し合いました。「企業の誘致についてどう考えるか」に関しては、サテライトオフィスがあれば、リモートワークや企業も選択肢になるという意見。「駅とのアクセス方法や座光寺駅前の整備は何か必要か」については、元善光寺前の参道に商店街が出来ればよい。「地域が活性化する商店や飲食店はどうなると良いのか」については、座光寺ならではの名物を作る。「農地の有効活用や観光となる農業は」については、適地に合わせて品目を植えて区画整理していく。「2拠点生活と学生の住みやすい街については」については、農地付きの家（空き家）を販売して移住してもらおう。といった意見が出されました。他にも沢山の意見をいただき、今後まとめて、自治会等に提案していきたいと思えます。

今回は、小中学校で感染症が発生して、若い方のご参加が少なかったことが残念でした。アンケートでは、今後も継続して開催した方が良いというご意見もいただきましたので、次回は若い方の参加をお待ちしております。

令和5年度 麻績の里種まき大賞



くしはら動物園様



大賞授賞式

「麻績の里種まき大賞」は、地域の中で温かな心の種をまいた個人や団体、地域のことを思って活動している個人や団体などを「麻績の里にまかれた地域づくりの種」として紹介し、讃え励ます賞です。令和5年度の授賞式が2月3日（土）の文化祭の中で開催され、くしはら動物園様が受賞されました。

新春書き初め会

新年の厳かな雰囲気の中、1月4日（木）、公民館大会議室にて新春書初め会が開催されました。前公民館長の塩澤哲夫先生指導の下、参加した13名の子どもたちは集中して筆を走らせていました。

塩澤先生によると、ポイントは2点。1点目は、字の中心をまっすぐに揃える。左側に名前を書くことを考えて、紙の中心から少し右側に文字の中心を置き、字の中心が左右にぶれないようにする。2点目は上下のバランス。4文



字なら、4等分と同じ重さで書く。平仮名は漢字の代わりを使っていいのでちよつと控えめにとのこと。子どもたちからは「広い所で集中して書けて良かった」との感想が聞かれました。

今年度の行事をまとめたよ

麻績の里体験学校まとめの会 公民館 健全育成部

1月20日（土）麻績の里体験学校まとめの会が開催されました。

この会は、公民館育成部が子どもたちを対象に行った、全8回の行事をまとめ、ふりかえる事を目的に開催されています。この日は、16名の親子が参加して、今年開催した行事の

写真を見ながら、思い出や感想を、みんなで話し合いながら、模造紙に貼りつけて、まとめを作成しました。

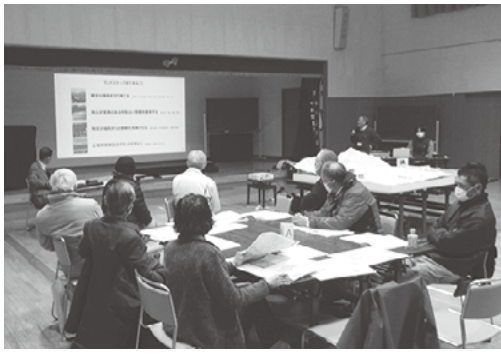
参加した荒井悠希くん（新1年生）は、「プラネタリウムなどの楽しかったことを思い出した。いろいろな事を知れて良かった。」と、また、お姉さんの未歩さん（新4年生）は、「パノラマファームの事を思い出した。焼肉が美味しかったので、また来年度も参加したい。」と感想を語ってくれました。

リニア時代を見据え

「夢を語る会」を開催

麻績の里ふるさと応援倶楽部

2月23日(金) 座光寺の各団体代表者と住民の皆様36人は、ふるさと応援倶楽部が主催の「夢を語る会」にて、熱く語り合いました。今年にはエス・バード内にある信州大学ランドスケープ・プランニング研究室の皆さんを迎え、数年後のリニア中央新幹線開通後を見据え、自然・歴史・文化・ものづくりが煌めく座光寺の「土地利用の在り方」「座光寺地区の景観」をテーマとし、始めに信大研究室の小川特任教授から研究内容の「地域ならではの景観・自然環境・史跡等の価値を保全し、



都市・集落・農地・林・道路・河川等を総合的に創出し、開発の機会に今より優れた環境を地域還元する」説明と学生から研究成果の「リニア駅周辺・国道153号の拡幅箇所や座光寺地区内のパノラマファーム他3カ所」の斬新なデザイン発表を受講し、その後参加者は3グループに別れ、研究所学生を交え夢やアイデア等意見交換をしまし

ニユースポーツ

体験会

体育部長 篠田 毅

3月3日(日)に、ニユースポーツ体験会を開催しました。感染症の関係で参加者が若干少ない状態でしたが、子どもから高齢者まで多くの方に参加いただきました。

今回、用意した種目は、ポッチャと囲碁ボールでした。対戦形式だったので多くの人と交流することができ、競技の正確なルールや勝ちのための戦略方法などを詳しく勉強できたことと思います。

た。座光寺内の発表デザインに対して参加者から環境や景観を守る賛同発言や現在の諸課題等多くの発言があり、研究室の皆さんから「座光寺の実情が知れた。他地区より熱心だ。」と感想もありました。今後は、デザイン実現に向け研究室と座光寺の相互交流を図り、学生の皆さんに座光寺の現状や住民の意向を直に体感していただければデザインが精度高く発展するでしょう。座光寺も将来像を多くの方が話し合い共有し、足並みをそろえる取組が大切だと感じました。

ポッチャと囲碁ボールの道具は、座光寺公民館で所有しています。予約すれば誰でも使用できます。地区の行事や親睦会などに利用されてみるのはいかがでしょうか。



子どもから大人まで楽しめる囲碁ボール

災害派遣

医療チームの一員として能登へ

飯田市立病院臨床検査技師

北原 康宏

被災された方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

災害派遣医療チーム(以下DMAT)は阪神・淡路大震災後に一人でも多くの命を助け、災害関連死を減らすために厚労省によって平成17年に作られた組織です。当院からも防災翌日には第1陣が参集拠点の公立能登総合病院へ向け出発しました。私は院内で後方支援を行いつつ第2陣に備え情報収集に努めました。

1月4日(木)の朝、私は第2陣として医師や看護師ら5名で1月7日(日)までの日程で能登へ出発し、夕方に七尾市の病院に到着しました。周辺の道路には亀裂や段差があり、パンクして走行不能になっている車が数台放置されていました。翌朝には土砂崩れや崩落で通行止めが多い中、迂回や交互通行を繰り返しながら珠洲市総合病院へ到着しました。

現地で業務調整員として活動し、患者搬送支援や全国から集まったDMAT隊のチーム管理、避難所の情報収集、またそれらを入力し情報共有しました。それが会議の資料となり課題の抽出、今後の活動方針を決める重要な情報となりました。院内の電気は使えませんが、水は使用できました。トイレは雨水で流して使うことができ、

宿泊はリハビリ室に職種や性別に関係なく寝袋等で床に雑魚寝をし、食事は各自が持ち込んだインスタント食品等で済ませ、余震が続く天候の悪い中、集まったDMAT隊と協力しながら活動しました。当地域でもいつ有事が起るかわかりません。避難場所の確認や非常持ち出し品の確認をしておくことと安心です。是非この機会に災害に備えて準備をしておきましょう。



仲間と任務にあたる北原さん(写真中央)

ホトケノザという雑草を知っていますか？ 名前を知らなくても花の写真を見れば、大抵の人は「ああ、あれか」と分かるもの。昭和の中ごろまでの生まれの人は、蜜吸い花^{ミチノヘ}で知っているかもしれない。花をそつと摘まんで（引き抜いて）、筒の下側を口につけるのです。甘い！。蜜を吸う花は他にもいくつもあるが、今の子どもはそんなことはしません。TVやゲームがあり、それよりも甘いお菓子がたくさんあるから。

さてこのホトケノザ、ユーラシア大陸に広く、日本でも全国に分布している。一説には史前帰化植物（日本列島に人の渡来と共に来た）とも言われる。



名の由来は花がつくところの葉の葉柄が無く、仏様が座る場所にみえるから。



蜜が甘い。濃色の斑点は蜜票といって虫に蜜のある所を指す役割。

このホトケノザ、最近はずいぶん少なくなったように思って、調べたら閉鎖花が増えていた。なぜ？

閉鎖花

閉鎖花は花が開かないで、花の中で自家受精をするのだ。スマレが良く知られていて、私たちが知っているスマレの花が咲いた後、初夏に閉鎖花をつける。普通の花（開放花）で他の花の花粉を求め、うまく受精しないと閉鎖花で確実に種子をつくる。他花の花粉で受精することは遺伝子



矢印が閉鎖花。これ以上開かず、中の雄しべと雌しべが受精している。

が混じりあって、多様性や進化にとつて重要だが、うまくいかなかったときに確実に子孫をつくる自然界の巧妙な仕組みと言える。

ホトケノザの場合

近年、ホトケノザの閉鎖花が増えたのは近縁の外来種が閉鎖花をつける種類が帰化して混じり込んだと思っただけ。タンポポの混血が進んでほとんどセイヨウタンポポとの雑種になってしまったのと同じ現象である。

意外な可能性

最近になって次のような研究報告があることを知った。「ヒメオドリコソウに与えた水の廃液をホトケノザに与

えたら閉鎖花が増えた」という。原因は分からない。

ヒメオドリコソウはトルコ等の原産の外来種で50年以上前に日本に渡来。座光寺でも増えて、一面に繁っている所がある。もちろんホトケノザと混生している所もたくさんある。この混生が閉鎖花を増やしている可能性が出てきた。

本来関係のない別種が、他の生物に影響を与える。食物連鎖のように目に見える関係以外に、生物間には思いがけない関係がある可能性があるものだ。

（伊那谷自然友の会 小林正明）



ヒメオドリコソウ

編集後記

出会いの春、芽吹きの新年度、始まりにまつわる枕詞が春には似あいます。昼が長くなり、気温が上昇し始める春に種をまくから、前に踏み出すイメージが与えられたのでしよう。ただ、春でなくても、いつでもはじめの一步は可能です。

座光寺地区もリニア新時代に向け第一歩を踏み出しました。駅街区間や天竜川橋りよの工事も始まり、高台から臨むとリニア本線完成後の姿を想像できます。駅とスマートICを結ぶ座光寺上郷道路の整備が進み、市場桜町線も上郷地区での工事が始まっています。

その一方で座光寺には、稲作や果樹・野菜栽培の盛んな農村の一面があります。恒川遺跡群など弥生・古墳時代の歴史、村人の無病息災や豊作を願う江戸後期以来の「獅子舞火消し」の象徴である「結髪斗」などの伝統も後世に残したいです。

リニア中間駅としての発展と、古代から続く歴史を共存させたまちづくりを全国に示し、座光寺が令和時代の地方のあり方の道標になることを願います。（広報部 下村）

